

妙法蓮華經。授記品。第六

爾の時に世尊、是の偈を説き已つて、諸の大衆に告げて、是かくの如き言を唱えたまわく、

我が此の弟子摩訶迦葉、未來世に於て當に三百萬億の諸佛世尊を奉観して、供養・恭敬・尊重・讚歎し、廣く諸佛の無量の大法を宣ぶることを得べし。最後身に於て佛になることを得ん、

名を光明如來・應供・正徧知・明行足・善逝・世間解・無上士・調御丈夫・天人師・佛・世尊といわん。國を光德と名

け、劫を大莊嚴と名けん。佛の壽は十二小劫、正法世に住すること二十小劫、像法亦住すること二十小劫ならん。國界

嚴飾にして、諸の穢惡・瓦礫・荊棘・便利の不淨なく、其の土平正にして、高下・坑坎・堆阜あることなけん。瑠璃を地と爲して寶樹行列し、黃金を繩と爲して以て道の側を界い、諸

の寶華を散じ、周徧して清淨ならん。其の國の菩薩無量千億にして、諸の聲聞衆亦復無數ならん。魔事あることなけん。

魔及び魔民ありと雖も皆佛法を護らん。

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて

言わく、
諸の比丘に告ぐ 我佛眼を以て
是の迦葉を見るに 未來世に於て
無數劫を過ぎて 當に作佛することを得べし

而も來世に於て 三百萬億の
諸佛世尊を 供養し奉観して

佛の智慧の爲に 淨く梵行を修せん
最上の 一足尊を供養し已つて

一切の 無上の慧を修習し

最後身に於て 佛に成爲ることを得ん

其の土清淨にして

瑠璃を地と爲し

諸の寶樹多くして

道の側に行列し

金繩道を界いて 見る者歡喜せん

常に好香を出し 衆の名華を散じて

しづね こうこう いだ もろもろ みょうけ きん

種種の奇妙なる 以て莊嚴とな

しゆじゅ きみよう まつ しょうごん

其の地平正にして 丘坑あることなけん

しゆじゅ ちびょうじょう くきょう

諸の菩薩衆 稱計すべからず

しゆじゅ ぼさつしゅ しょうけい

其の心調柔にして 大神通に逮び

しゆじゅ ちびょうじょう だいじんづう およ

諸佛の大乗經典を奉持せん

しゆじゅ だいじょうきょうでん ぶじ

諸の聲聞衆の 無漏の後身

しゆじゅ しょくもんしゅ むろ ごしん

法王の子なる 亦計るべからず

すなわ てんげん もつ かぞえ 知ること能わじ

乃ち天眼を以ても 數え知ること能わじ

其の佛は當に壽 十二小劫なるべし

しようあう じゅ じゅ じゅうじゅ

正法世に住すること 二十九劫

しようあう じゅ じゅ じゅうじゅ

像法亦住すること 二十九劫ならん

しようあう じゅ じゅ じゅうじゅ

光明世尊 其の事是の如し

しよみょうせそん そ じかく ごと

一心に合掌し、世尊を瞻仰して目暫くも捨てず。即ち共に聲

しようあう がっしょ せそん せんとう ま かかせんねんとう

爾の時に大目犍連・須菩提・摩訶迦旃延等、皆悉く悚惧して

しようあう とき だいもっけんれん しゅほだい ま かかせんねんとう

大雄猛世尊 諸釋の法王

わかれら あいみん しょしゃく ぼうおう

我等を哀愍したもうが故に

わかれら あいみん しょしゃく ぼうおう

若し我が深心を知しめして 授記せられば

わかれら じんしん じゅき じゅき

心猶お疑懼を懷いて 未だ敢て即便ちせず

もし復王の教を得ば 然して後に乃ち敢て食せんが如く

わかれら またあう おしえ じき

若し我が深心を知しめして 授記せられば

わかれら じんしん じゅき じゅき

甘露を以て灑ぐに 热を除いて 清涼を得るが如くならん

かんろ まつ ねつ のぞ しょうちりょう

食えたる國より來つて 忽ちに大王の膳に遇わんに

ころな くに たぢま だいあう そなえ

心猶お疑懼を懷いて 未だ敢て即便ちせず

もし復王の教を得ば 然して後に乃ち敢て食せんが如く

我等も亦是の如し 每に小乘の過を惟うて
當に云何して 佛の無上慧を得べきを知らず

佛の音聲の 我等作佛せんと言うを聞くと雖も
心尙お憂懼を懷くこと 未だ敢て便ち食せざるが如し
若し佛の授記を蒙りなば 爾して乃ち快く安樂ならん
大雄猛世尊 常に世間を安んぜんと欲す
願わくは我等に記を賜え 飢えて教を須つて食するが如く

ならん

爾の時に世尊、諸の大弟子の心の所念を知しめして、諸

の比丘に告げたまわく、

是の須菩提は當來世に於て、三百萬億那由他的佛を奉覲し
て、供養・恭敬・尊重・讚歎し、常に梵行を修し菩薩の道を具
して、最後身に於て佛に成爲ることを得ん。號を名相如來・
應供・正徧知・明行足・善逝・世間解・無上士・調御丈夫・
天人師・佛・世尊といわん。劫を有寶と名け、國を寶生と名け
ん。其の土平正にして頗黎を地と爲し、寶樹莊嚴して、諸の
丘坑・沙礫・荊棘・便利の穢なく、寶華地に覆い、周徧して
の弟子無量無邊にして、算數・譬諭の知ること能わざる所なら
ん。諸の菩薩衆、無數千萬億那由他ならん。佛の壽は十二
小劫、正法世に住すること二十小劫、像法亦住すること二
十小劫ならん。其の佛常に虛空に處して衆の爲に法を説いて、
無量の菩薩及び聲聞衆を度脱せん。

言わく、

諸の比丘衆 今汝等に告ぐ
皆當に一心に 我が所説を聽くべし

我が大弟子 須菩提は

當に作佛することを得べし 號を名相といわん

當に無數萬億の諸佛を供し

佛の所行に隨つて 漸く大道を具すべし

最後身に 三十二相を得て

端正殊妙なること 猶お寶山の如くならん

其の佛の國土 嚴淨第一にして

衆生の見る者 愛樂せざることなけん

佛其の中に於て 無量の衆を度せん

其の佛の法の中には 諸の菩薩多く

皆悉く利根にして 不退の輪を轉ぜん

彼の國は常に 菩薩を以て莊嚴せん

諸の聲聞衆 稱數すべからず

皆三明を得 六神通を具し

八解脫に住し 大威德あらん

其の佛の說法には 無量の神通

變化を現ずること 不可思議ならん

皆共に合掌し 佛語を聽受せん

其の佛は當に壽 十二小劫なるべし

正法世に住すること 二十小劫

像法亦住すること 二十小劫ならん

爾の時に世尊、復諸の比丘衆に告げたまわく、

我今汝に語る、是の大迦旃延は當來世に於て、

以て八千億の佛に供養し奉事して、恭敬尊重せん。諸佛の滅後

に各塔廟を起て高さ千由旬、縱廣正等にして五百由旬な

らん。金・銀・瑠璃・碑碣・碼碯・眞珠・玫瑰の七寶を以て

合 成し、衆華・瓔珞・塗香・抹香・燒香・繪蓋・幢旛を塔廟に供養せん。是れを過ぎて已後、當に復二萬億の佛を供養するも、亦復是の如くすべし。是の諸佛を供養し已つて、菩薩の道を具して、當に作佛することを得べし。號を閻浮那提金光如來・應供・正徧知・明行足・善逝・世間解・無上士・調御丈夫・天人師・佛・世尊といわん。其の土平正にして頗黎を地とし寶樹莊嚴し、黃金を繩として以て道の側を界い、妙華地に覆い、周徧清淨にして、見る者歡喜せん。四惡道の地獄・餓鬼・畜生・阿修羅道なく、多く天・人あらん。諸の聲聞衆及び諸の菩薩、無量萬億にして其の國を莊嚴せん。佛の壽は十二小劫、正法世に住すること二十小劫、像法亦住すること二十小劫ならん。

言わく、
諸の比丘衆皆一心に聽け
我が所説の如きは眞實にして異なることなし
是の迦旃延は當に種種の
妙好の供具を以て諸佛を供養すべし
其の最後身に佛の智慧を得
諸佛の滅後に七寶の塔を起て
亦華・香を以て舍利を供養し
等正覺を成じ國土清淨にして
無量萬億の衆生を度脱し
皆十方に供養せらるることを爲ん
佛の光明は能く勝れる者なけん
其の佛の號を闍浮金光といわん
菩薩聲聞の一切の有を斷ぜる

無量無數にして 其の國を莊嚴せん

爾の時に世尊、復大衆に告げたまわく、

我今汝に語る、是の大目犍連は當に種種の供具を以て八千の

諸佛に供養し、恭敬・尊重したてまつるべし。諸佛の滅後に

各塔廟を起てて高さ千由旬、縱廣正等にして五百由旬なら

ん。金・銀・瑠璃・碑碣・碼碭・眞珠・玫瑰の七寶を以て合成

し、衆華・瓔珞・塗香・抹香・燒香・繪蓋・幢旛、以用て供養

せん。是れを過ぎて已後、當に復二百萬億の諸佛を供養するも、

亦復是の如くすべし。當に成佛することを得べし、號を多摩羅

跋栴檀香如來・應供・正徧知・明行足・善逝・世間解・無上士

・調御丈夫・天人師・佛・世尊と曰わん。劫を喜滿と名け、國を

意樂と名けん。其の土平正にして頗黎を地となし、寶樹莊嚴

し、眞珠華を散じ、周徧清淨にして、見る者歡喜せん。諸

の天・人多く、菩薩・聲聞其の數無量ならん。佛の壽は二十四

小劫、正法世に住すること四十九劫、像法亦住すること四

十小劫ならん。

言わく、

我が此の弟子 大目犍連は

是の身を捨て已つて 八千二百萬億の

諸佛世尊を見たてまつることを得

佛道の爲の故に 供養恭敬し

諸佛の所に於て 常に梵行を修し

無量劫に於て 佛法を奉持せん

諸佛の滅後に 七寶の塔を起てて

長く金刹を表し 華・香・伎樂をもつて

以て諸佛の塔廟に供養し

意樂國に於て 作佛することを得
漸漸に菩薩の道を 具足し已つて
多摩羅 梅檀之香と號けん
其の佛の壽命 二十四劫ならん
常に天・人の爲に 佛道を演説せん
聲聞無量にして 恒河沙の如く
三明六通あつて 大威德あらん
菩薩無數にして 志固く精進し
佛の智慧に於て 皆退轉せじ
佛の滅度の後 正法當に住すること
四十小劫なるべし 像法亦爾なり
我が諸の弟子の 威德具足せる
其の數五百なるも 皆當に授記すべし
未來世に於て 咸く成佛することを得ん
我及び汝等が 宿世の因縁
吾今當に説くべし 汝等善く聽け